

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

【日本赤十字社への申請】

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
1		理学部臨床検査技師養成コース病院実習	石田 智子	東邦大学医療センター佐倉病院 輸血部	臨床検査技師	①	①	赤血球4バッグ、血漿3バッグ、血漿257.0mL
2		臨床検査技師養成教育における輸血検査実習	三島 由祐子	杏林大学 保健学部	学内講師	①	①	赤血球4バッグ、血漿4バッグ
3		検査用の精度管理用コントロールの製造	新井 秀夫	オリエンタル酵母工業(株)	常務取締役 バイオ事業本部長	②	②	検査残余血清1684000.0mL
4		結核・ハンセン病等抗酸菌感染症に対する新規ワクチンの開発	前田 百美	国立感染症研究所	室長	②	①	全血587.0mL
5		ヒト血漿セレブリンPの精製およびその機能解析	齋藤 芳郎	東北大学大学院 薬学研究所	教授	②	①	血漿44バッグ、血漿24848.0mL
6		茨城県臨床検査技師会による所属施設への輸血検査業務支援(精度管理)	岩田 幸広	(公社)茨城県臨床検査技師会	生命倫理検査部門 輸血・移植検査分野 分野長	①	①	赤血球3バッグ、血漿1バッグ、血漿476.0mL
7		富山県臨床検査精度管理協議会	北島 勲	富山県臨床検査精度管理協議会	医師	①	①	赤血球3バッグ、血漿465.0mL
8		愛知県臨床検査精度管理調査(輸血検査部門)	藤田 孝	公益社団法人 愛知県臨床検査技師会	会長	①	①②	赤血球1バッグ、血漿1バッグ、1211.0mL、検査残余全血6本
9		愛知県臨床検査技師会 輸血検査研究班 基礎講座	藤田 孝	公益社団法人 愛知県臨床検査技師会	会長	①	①②	赤血球1バッグ、血漿188.0mL、検査残余全血50本
10		輸血検査の実習	畠山 真奈美	北海道医学技術専門学校	教員	①	①	赤血球13バッグ、血漿217.0mL
11		認定輸血検査技師協議会認定試験	加藤 栄史	認定輸血検査技師協議会	試験委員長	①	①	赤血球16バッグ、血漿7バッグ、血漿462.0mL
12		医学部学生の血液型判定の実習	横須賀 忠	東京医科大学 免疫学分野	主任教授	①	①	赤血球4バッグ、血漿4バッグ
13		国家検定、取去試験、および規格試験の実施	池辺 詠美	国立感染症研究所	厚生労働技官	①②	②	検査残余全血4本
14		臨床免疫学実習における輸血検査の指導	白土 佳子	埼玉県立大学	准教授	①	①	赤血球4バッグ、血漿3バッグ、血漿250.0mL
15		抗血小板抗体検出試薬製造に必要な有効期限切血小板製剤について	松本 佳明	ベックマン・コールター・三島株式会社 テクニカルオペレーショングループ2グループ	Senior Engineer System	②	①②	検査残余血清200本、血小板344バッグ
16		マラリア原虫のガメトサイト形成機構の解明	筏井 宏実	北里大学 獣医学部	准教授	②	①	赤血球12バッグ
17		輸血検査部門の精度管理	南 貴普	一般社団法人 徳島県臨床検査技師会	精度管理委員会 輸血検査部門責任者	①	①	赤血球4バッグ、血漿1バッグ、血漿250.0mL
18		埼玉県医師会臨床検査精度管理事業	金井 忠男	埼玉県医師会	会長	①	①	赤血球4バッグ、血漿4バッグ、血漿1027.0mL
19		抗マラリア原虫薬の開発	渡邊 信元	国立研究開発法人 理化学研究所 環境資源科学研究センター	嘱託職員	②	①	赤血球21バッグ
20		卒前卒後医学教育(輸血検査実習)	田野崎 隆二	慶應義塾大学病院 輸血・細胞療法センター	教授	①	①	赤血球4バッグ、血漿2バッグ
21		マラリア原虫感染後の赤血球内部に構築される膜に対する機能解析	早川 枝幸	自治医科大学 医学部 医動物学部門	助教	②	①	赤血球18バッグ、血漿3バッグ、血漿731.0mL
22		栃木県臨床検査精度管理調査	長島 徹	一般社団法人 栃木県医師会	副会長	①	①	赤血球2バッグ、血漿2バッグ
23		輸血・移植検査学実習	登尾 一平	学校法人 銀杏学園 熊本保健科学大学 医学検査学科	講師	①	①	赤血球5バッグ、血漿2バッグ、血漿722.0mL、血小板1バッグ
24		アミノ酸制御による新規のマラリア治療・予防法の開発研究	嘉藤 洋陸	東京慈恵会医科大学 熱帯医学講座	教授	②	①②	赤血球12バッグ、血漿10バッグ、検査残余血清300本
25		学生実習(輸血検査学実習)	西岡 安彦	徳島大学 医学部	学部長	①	①②	赤血球2バッグ、血漿1バッグ、血漿475.0mL、セグメント全血160本、検査残余全血40本

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
26		日本輸血・細胞治療学会認定医制度認定試験	面川 進	日本輸血・細胞治療学会	認定医制度審議会 議長	①	①	赤血球2バッグ、血漿1バッグ
27		ABO式血液型の判定	隅 輝満	山口県警察本部 科学捜査 研究所	所長	②	②	検査残余全血144本
28		学生実習(血液型、不規則抗体検査、交差適合試験)	小野寺 利恵	山陽女子短期大学 臨床検 査科	准教授	①	①②	赤血球2バッグ、血漿1バッグ、血漿 1190.0mL、検査残余全血21本
29		学生の輸血検査学実習	山田 久	学校法人明経学園 美萩野 臨床医学専門学校	教員	①	①	赤血球1バッグ、血漿250.0mL
30		献血血液を用いた医学部での教育研修	高橋 直人	秋田大学医学部附属病院 輸血部	教授 輸血部長	①	①	血漿521.0mL
31		福島県臨床検査技師会 学術部輸血・移植検査 部門における教育	奥津 美穂	一般社団法人 福島県臨床 検査技師会	輸血・移植検査部門 長	①	②	検査残余全血6本
32		総コレステロール測定用試薬及びトリグリセライド 測定用試薬の性能試験等の際に自家使用する高 濃度リポ蛋白画分試料の調製	仲野 瞬	株式会社 セロテック	課長	②	②	検査残余血清15000.0mL
33		マラリア原虫のゲノム情報に立脚した新規の診 断、治療、予防法の開発研究	西川 義文	帯広畜産大学 原虫病研究 センター	教授	②	①	赤血球7バッグ
34		石川県臨床衛生検査技師会輸血検査研究班実技 研修会	長原 三輝雄	石川県臨床衛生検査技師会	会長	①	①	赤血球3バッグ、血漿457.0mL
35		学生実習(輸血検査)	笠原 聡	新潟医療技術専門学校	専任教員	①	①	赤血球6バッグ、血漿5バッグ
36		大分県医師会精度管理調査(輸血検査)	河野 幸治	一般社団法人 大分県医師 会	会長	①	①	赤血球5バッグ、血漿1バッグ、血漿970.0mL
37		岡山県精度管理調査(輸血部門)	藤岡 克徳	一般社団法人 岡山県臨床 検査技師会	会長	①	①	赤血球4バッグ、血漿2バッグ、血漿732.0mL
38		臨床検査精度管理調査	藤原 祝子	一般社団法人 長野県臨床 検査技師会	精度管理事業部長	①	①	赤血球3バッグ、血漿1バッグ、血漿236.0mL
39		山口県精度管理調査	楢林 秀紀	一般社団法人 山口県臨床 検査技師会	臨床検査技師	①	①	赤血球6バッグ、血漿959.0mL
40		輸血・移植検査学実習(神戸常盤大学保健科学部 医療検査学科の学生実習)	坂本 秀生	神戸常盤大学 保健科学部 医療検査学科	学科長	①	①②	赤血球11バッグ、血漿4バッグ、血漿 241.0mL、検査残余全血40本
41		輸血検査学実習	小澤 優	京都保健衛生専門学校 臨床 検査学科	教務部長	①	①	赤血球10バッグ、血漿1バッグ、血漿 1031.0mL
42		法医学実務、薬毒物分析センター実務、及び薬毒 物分析法確立のため使用する。	岩井 雅枝	愛知医科大学 医学部 法医 学	助教	②	②	検査残余全血80本
43		岩臨技輸血・移植部門研修会	高館 潤子	岩手県臨床衛生検査技師会	輸血・移植部門担当	①	①	赤血球1バッグ
44		岩臨技精度管理事業 輸血・移植部門	高館 潤子	岩手県臨床衛生検査技師会	輸血・移植部門担当	①	①	赤血球2バッグ、血漿1バッグ、血漿239.0mL
45		医学教育用	藤好 麻衣	久留米大学病院 臨床検査 部	臨床検査技師	①	①	赤血球7バッグ、血漿2バッグ、血漿244.0mL
46		新潟県臨床検査技師会 輸血細胞治療部門 実 技講習会	志田 幸江	新潟県臨床検査技師会	輸血細胞治療部門 長	①	②	検査残余全血17本
47		免疫検査学実習	望月 泰男	昭和医療技術専門学校 臨床 検査技師科 教務課	副校長	①	①	赤血球12バッグ、血漿9バッグ
48		急性リンパ性白血病(ALL)における定量PCRを用 いた微小残存病変(MRD)測定法の確立と臨床的 意義の検討	眞田 昌	名古屋医療センター 臨床研 究センター	高度診断研究部長	②	②	検査残余全血500本
49		九州・沖縄地区臨床検査精度管理事業	柳原 克紀	九州臨床検査精度管理研究 会	会長	①	①	赤血球11バッグ、血漿34バッグ、血漿 4020.0mL
50		公益社団法人 兵庫県臨床検査技師会 輸血研 究班活動	加藤 正輝	公益社団法人 兵庫県臨床 検査技師会	輸血研究班長	①	①	赤血球2バッグ、血漿540.0mL

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
51		静岡県臨床検査精度管理調査	松島 江理	静岡県臨床検査精度管理委員会	臨床検査技師	①	①	赤血球2バッグ、血漿2バッグ、血漿247.0mL
52		山形県臨床検査精度管理	佐藤 大亮	一般社団法人 山形県臨床検査技師会	臨床検査技師	①	①	赤血球2バッグ、血漿467.0mL
53		質の高い輸血学教育研修の実践	梶原 道子	東京医科歯科大学病院 輸血・細胞治療センター	副センター長	①	①	赤血球4バッグ、血漿4バッグ
54		本学 輸血検査実習	中村 揚介	昭和大学病院 輸血センター	臨床検査技師	①	①	赤血球83バッグ
55		学生実習(臨床免疫学における輸血検査実習)	国分寺 晃	広島国際大学	教授	①	①	赤血球6バッグ、血漿2バッグ、血漿1011.0mL
56		輸血テクニカルセミナー2022実技講習会	松下 正	日本輸血・細胞治療学会	理事長	①	①	赤血球7バッグ、血漿2バッグ
57		二級臨床検査士免疫血清学、緊急臨床検査士資格認定試験および免疫血清学技術講習会	宮地 勇人	公益社団法人 日本臨床検査同学院	理事長	①	①	赤血球10バッグ、血漿9バッグ
58		佐賀県臨床検査技師会輸血実技研修会	山田 麻里江	(一社)佐賀県臨床検査技師会	輸血部門 生涯教育研修委員	①	①	赤血球2バッグ、血漿1バッグ、血漿251.0mL
59		多項目実用参照物質の作製と評価	篠原 克幸	公益社団法人 日本臨床検査標準協議会	多項目実用参照物質委員会副委員長	①	②	検査残余血清24000.0mL
60		熱帯熱マラリア原虫人工染色体による遺伝子ライブラリー作製とそれを用いた薬剤耐性遺伝子の同定	岩永 史朗	大阪大学微生物病研究所	教授	②	①	赤血球78バッグ、血漿62バッグ、血漿6020.0mL
61		感染症流行予測調査	今川 正紀	厚生労働省 健康局 結核感染症課	感染症情報管理室長	②	②	検査残余血清1540本
62		臨床検査技師養成教育における輸血検査実習	稲福 全人	学校法人 湘央学園 湘央医学技術専門学校	校長	①	①	赤血球21バッグ、血漿5バッグ
63		精度改善事業	芹澤 明彦	一般社団法人 神奈川県臨床検査技師会	会長	①	①	赤血球4バッグ、血漿7バッグ
64		輸血・血液型検査実習	芹澤 昭彦	一般社団法人 神奈川県臨床検査技師会	会長	①	①	赤血球6バッグ、血漿3バッグ
65		マラリア原虫の分子細胞生物学的解析および時空間的動態解析	金子 修	長崎大学 熱帯医学研究所	教授	②	①	赤血球50バッグ、血漿23バッグ
66		学生教育における血液型実習	塚 正彦	金沢大学医薬保健研究域医学系	教授	①	②	検査残余全血15本
67		輸血教育学	井上 孝	東京医学技術専門学校	学校長	①	①	赤血球12バッグ、血漿4バッグ
68		(一社)鳥根県臨床検査技師会 精度管理調査輸血検査部門	領家 敬子	(一社)鳥根県臨床検査技師会	会長	①	①	赤血球3バッグ、血漿448.0mL
69		佐賀県医師会臨床検査精度管理調査	枝園 源一郎	公益財団法人 佐賀県健康づくり財団	副理事長(臨床検査担当理事)	①	①	赤血球4バッグ、血漿2バッグ、血漿298.0mL
70		滋賀県臨床検査技師会精度管理事業(輸血部会)	西村 好博	(公社)滋賀県臨床検査技師会	滋賀県臨床検査技師会 精度管理委員 輸血部会代表	①	①	赤血球3バッグ、血漿3バッグ、血漿260.0mL
71		広島県臨床検査精度管理調査	松村 誠	広島県医師会	会長	①	①	赤血球2バッグ、血漿1バッグ、血漿1165.0mL
72		精度管理調査用試料として	棚村 一彦	一般社団法人 岐阜県臨床検査技師会	会長	①	①	赤血球2バッグ、血漿1バッグ、血漿291.0mL
73		滋賀県臨床検査技師会 輸血細胞治療部門 実技研修会	山中 博之	(公社)滋賀県臨床検査技師会 輸血細胞治療部門	臨床検査技師	①	①	赤血球4バッグ、血漿2バッグ、血漿472.0mL
74		輸血移植検査学実習	五十嵐 康之	北里大学保健衛生専門学校	専任教員	①	①	赤血球5バッグ、血漿7バッグ、血漿245.0mL
75		千葉県臨床検査技師会輸血部門精度管理	綿引 一成	一般社団法人 千葉県臨床検査技師会	会長	①	①	血漿1バッグ、血漿237.0mL

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
76		マラリアワクチンの研究	高島 英造	愛媛大学 プロテオサイエンスセンター	准教授	②	①	赤血球24バッグ、血漿3189.0mL
77		マラリア原虫の赤血球寄生分子機構の研究	橋 真由美	愛媛大学 プロテオサイエンスセンター	助教	②	①	赤血球12バッグ、血漿2812.0mL
78		学生実習(輸血検査)	赤坂 和美	旭川医科大学病院 臨床検査・輸血部	部長	①	①②	赤血球3バッグ、血漿680.0mL、セグメント全血160本
79		福島県臨床検査技師会 精度管理事業	渡辺 隆幸	福島県臨床検査技師会	精度管理事業部 精度管理委員長	①	①	赤血球2バッグ、血漿1バッグ、血漿257.0mL
80		人工赤血球(赤血球代替物)の開発	小松 晃之	中央大学 理工学部	教授	①②	①	赤血球5バッグ
81		医療費適正化効果のある特定健診・特定保健指導の臨床検査に関する効果的エビデンスの提供を保證する精度管理調査試料の作製と活用	宮島 喜文	一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会	代表理事会長	①	②	検査残余血清70000.0mL
82		マラリア原虫の in vitro 培養系を用いた薬剤耐性研究	坂元 晴香	東京女子医科大学	准教授	②	①	赤血球8バッグ
83		学生における輸血検査教育・実技講習	池田 和彦	福島県立医科大学	教授	①	①	赤血球49バッグ、血漿515.0mL
84		初期研修医 輸血検査実習	大崎 浩一	雪の聖母会 聖マリア病院	輸血科 診療部長	①	①	赤血球3バッグ、血漿2バッグ、血漿227.0mL
85		培養熱帯熱マラリア原虫を用いた薬剤標的分子の探索研究	金 恵淑	岡山大学	准教授	②	①	赤血球16バッグ、血漿466.0mL
86		マラリア原虫のオルガネラの解析	野崎 智義	国立大学法人 東京大学大学院 医学系研究科 生物医化学教室	教授	②	①	赤血球24バッグ
87		新生児マスキリーニングの精度管理	但馬 剛	国立研究開発法人 国立成育医療研究センター 研究所 マスキリーニング研究室	室長	②	①	全血776.0mL
88		輸血実技講習会	三平 りさ	公益社団法人 大阪府臨床検査技師会 学術部輸血検査部門	世話人責任者	①	①②	赤血球3バッグ、血漿486.0mL、検査残余全血8本
89		東京都臨床検査技師会 輸血レベルの向上を目指した教育的使用 実技講習会	原田 典明	公益社団法人 東京都臨床検査技師会	会長	①	①	赤血球2バッグ、血漿3バッグ
90		輸血検査実習	小野 孝明	浜松医科大学医学部附属病院	輸血・細胞治療部部长	①	①	赤血球28バッグ、血漿5バッグ、血漿3970.0mL
91		宮城県臨床検査技師会 輸血検査部門 実技研修会	岩木 啓太	宮城県臨床検査技師会	輸血検査部門長	①	①②	血漿228.0mL、検査残余全血30本
92		宮城県臨床検査技師会 精度管理調査	岩木 啓太	宮城県臨床検査技師会	輸血検査部門長	①	①	赤血球2バッグ、血漿3バッグ、血漿236.0mL
93		熱帯熱マラリア原虫の赤血球侵入機構および細胞内物質輸送機構の解析	大槻 均	鳥取大学 医学部	准教授	②	①	赤血球24バッグ、血漿457.0mL
94		感染症検体パネルの整備	加藤 孝宣	国立感染症研究所	ウイルス第二部室長	②	①	血漿11600.0mL
95		石川県医師会臨床検査精度管理調査	安田 健二	石川県医師会	医師	①	①	赤血球4バッグ、血漿949.0mL
96		臨床化学検査の外部精度管理調査における最適な調査試料の作製と評価	牟田 正一	一般社団法人 福岡県臨床衛生検査技師会	精度管理事業部長	①	①	血漿17900.0mL
97		学生実習(輸血検査)	重松 康之	大阪医療技術学園専門学校 臨床検査技師科	学科長	①	①②	赤血球3バッグ、血漿1バッグ、血漿469.0mL、検査残余全血8本
98		備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤の実用化を目指す研究	酒井 宏水	奈良県立医科大学	教授	①	①	赤血球52バッグ
99		佐賀大学医学部附属病院検査部内の実技講習会	山田 麻里江	佐賀大学医学部附属病院 検査部	係長	①	①	赤血球3バッグ、血漿1バッグ、血漿544.0mL
100		輸血研修会試料として使用	手登根 稔	一般社団法人 沖縄県臨床検査技師会	会長(臨床検査技師)	①	①	血漿1バッグ、血漿240.0mL

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
101		譲渡血液を用いた輸血移植検査学の実習	山田 武司	愛媛県立医療技術大学 保健科学部 臨床検査学科	教授	①	①	赤血球5バッグ、血漿1バッグ、血漿690.0mL
102		臨床検査精度管理調査	高井 康之	一般社団法人 大阪府医師会	会長	①	①	赤血球4バッグ、血漿2バッグ、血漿1382.0mL
103		学生実習用	三木 浩和	徳島大学病院 輸血・細胞治療部	副部長	①	①	赤血球7バッグ、血漿1221.0mL
104		埼玉県臨床検査技師会 輸血検査実技研修会	神山 清志	公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会	会長	①	①	赤血球7バッグ、血漿1バッグ、血漿360.0mL
105		免疫検査学実習における輸血関連検査	太田 悦朗	北里大学 医療衛生学部	准教授	①	①	赤血球5バッグ、血漿4バッグ
106		臨床検査技師育成課程における輸血検査実習	川村 宏樹	新潟医療福祉大学 医療技術学部 臨床技術学科	教授	①	①	赤血球7バッグ、血漿2バッグ、血漿1007.0mL
107		卒業臨床研修医輸血検査実習	平野 公通	兵庫医科大学病院 医療人育成研修センター 卒業研修室	室長	①	①	赤血球4バッグ、血漿917.0mL
108		検査試薬に対する非特異反応等回避への使用	菅 亮彦	株式会社カイノス	研究所 所長	②	②	検査残余血漿300本、検査残余血清2400本
109		脳梗塞再生治療に用いる骨髄幹細胞培養に使用する血小板溶解物の作成	川堀 真人	北海道大学 大学院医学研究院 脳神経外科学教室	助教	②	①	血小板20バッグ
110		感染症検査試薬の新規開発および改良検討	金子 敦	富士レボロ株式会社	試薬開発部長	①②	②	検査残余血清10000本
111		歯科臨床検査法における血液成分検査・血液型検査	丸山 明美	三重県立公衆衛生学院	学院長	①	②	検査残余全血4本
112		ヒト末梢血細胞を用いた抗感染菌の基礎研究	西村 知泰	慶應義塾大学 保健管理センター	准教授	②	①	全血1885.0mL
113		輸血・移植検査学実習	畑中 徳子	天理医療大学 医療学部 臨床検査学科	教授	①	①	赤血球3バッグ、血漿948.0mL
114		宮城県臨床検査技師会 精度管理事業	播磨 晋太郎	宮城県臨床検査技師会	精度管理部門員	①	①	赤血球2バッグ、血漿1バッグ
115		マラリア原虫のライフサイクル分子基盤解明	美田 敏宏	順天堂大学	教授	②	①	赤血球18バッグ、血漿18バッグ
116		生命科学部・2年 基礎生命科学実習Ⅲ・学生実習(血液細胞解析法)	平位 秀世	東京薬科大学	教授	①	①	赤血球4バッグ、血漿4バッグ
117		熱帯熱マラリア原虫の細胞内物質輸送機構の解析	入子 英幸	神戸大学大学院 保健学研究科	准教授	②	①	赤血球5バッグ
118		新鮮血液のABO式血液型判定実習	上野 易弘	神戸大学大学院 医学研究科 地域社会医学健康科学講座 法医学分野	教授	①	②	検査残余全血16本
119		学生実習及び認定輸血検査技師試験研修	赤司 浩一	九州大学病院 検査部	検査部長	①	①	赤血球1バッグ、血漿604.0mL
120		血中微生物回収方法の検討に用いる試料としての献血血液の使用	井上 聡	ニッターポーメディカル株式会社	メディカル研究開発センター品質本部長	②	①	全血342.0mL
121		獨協医科大学病院 令和4年度臨床研修医卒業教育輸血検査実習	三谷 絹子	獨協医科大学病院 輸血部	部長	①	①	赤血球20バッグ、血漿6バッグ
122		輸血検査実技講習会	大矢知 崇浩	三重県臨床検査技師会	臨床検査技師	①	②	セグメント全血4本、検査残余全血8本、検査残余血漿8本、検査残余血清2本
123		iPS細胞技術に基づく同種臨床試験用巨核球細胞の樹立と血小板製剤の開発に関する研究	浅見 麻乃	株式会社メガカリオン	取締役 最高科学責任者	①②	①	血小板3バッグ
124		学生学内実習	熊取 厚志	鈴鹿医療科学大学 保健衛生学部	教授	①	①	赤血球8バッグ、血漿111.0mL
125		日本総合健診医学会精度管理調査	五関 善成	一般社団法人 日本総合健診医学会	精度管理委員会 委員長	①②	②	検査残余血清21000.0mL

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
126		体外診断用医薬品の品質管理	柿沼 幸利	バイオ・ラッド ラボラトリーズ株式会社	診断薬カスタマーサポート部 部長	①②	②	検査残余全血432本
127		輸血検査精度管理調査	山本 茂一	株式会社カインス	学術部長	①②	①	赤血球2バッグ、血漿4バッグ、血漿1541.0mL
128		検査技師実習	廣田 雅子	東京工科大学 医療保険学部 臨床検査学科	准教授	①	①	血漿494.0mL
129		既承認体外診断用医薬品における品質管理試験	殿岡 健太郎	株式会社シマ研究所 薬事部	部長	②	②	検査残余血清400本
130		熱帯熱マalaria原虫のin vitro培養系による病原機構の解明	中野 由美子	国立感染症研究所 寄生動物部	主任研究官	②	①	赤血球23バッグ、血漿3バッグ
131		新人臨床検査技師の技能研修	乗舟 政幸	独立行政法人 国立病院機構 中国四国グループ	臨床検査専門職	①	①	赤血球2バッグ、血漿462.0mL
132		医学部における輸血検査実習	浅井 さとみ	東海大学 医学部附属病院	准教授	①	①	赤血球4バッグ、血漿4バッグ
133		山梨県医師会精度管理事業	多田 正人	一般社団法人 山梨県臨床検査技師会	会長	①	①	赤血球2バッグ、血漿2バッグ、血漿258.0mL
134		Wakoコントロールサーベイ(輸血検査)	高橋 かおり	富士フイルム和光純薬株式会社 臨床検査事業部 臨床検査学術開発部 カスタマーサポート部 カスタマーサポートセンター	課長	②	①	赤血球2バッグ、血漿2バッグ、血漿596.0mL
135		培養マalaria原虫を用いた簡便なマalaria原虫検出システム構築研究	橋本 宗明	国立研究開発法人 産業技術総合研究所	主任研究員	②	①	赤血球12バッグ、血漿2652.0mL
136		輸血・移植検査学実習に使用	柴山 修司	つくば国際大学 医療保健学部 臨床検査学科	教授	①	①②	赤血球10バッグ、血漿4バッグ、血漿472.0mL、セグメント全血200本
137		赤血球期マalaria原虫を用いた新規抗マalaria薬スクリーニング	水上 修作	長崎大学 熱帯医学研究所 免疫病態制御学分野	准教授	②	①	赤血球8バッグ
138		京都府臨床検査技師会 実技講習会	日下部 昌平	一般社団法人京都府臨床検査技師会 輸血研究班	班長	①	①	赤血球3バッグ、血漿487.0mL
139		抗HTLV-1ヒト免疫グロブリンによるHTLV-1の革新的感染予防モデルの開発とその有効性の検討	水上 拓郎	国立感染症研究所	次世代生物学的製剤研究センター 第一室長	②	①	血漿18バッグ、血漿22080.0mL
140		輸血検査精度管理	伊倉 基子	三重県臨床検査技師会	輸血検査精度管理班	①	①	赤血球3バッグ、血漿542.0mL
141		輸血検査実技講習会	丸山 晃二	(公社)大分県臨床検査技師会	会長	①	①②	赤血球1バッグ、血漿1バッグ、血漿249.0mL、セグメント全血80本、検査残余血漿40本
142		初級者対象輸血検査実技研修会	南部 重一	一般社団法人 富山県臨床検査技師会	臨床検査技師	①	①	赤血球3バッグ、血漿468.0mL
143		感染症安全対策体制整備事業輸血の安全性確保を目指した感染症安全対策体制構築のための研究	浜口 功	国立感染症研究所 次世代生物学的製剤研究センター	センター長	①②	①	血漿5バッグ
144		精度管理調査における献血血液の利用	渡邊 博昭	(一社)新潟県臨床検査技師会	会長	②	①	全血726.0mL
145		ヘパトカインを標的とした診断薬・治療薬の開発	董 俊成	金沢大学大学院 医学系研究科	教授	②	①	血漿12バッグ、血漿8780.0mL
146		輸血検査の理解と技術向上	細川 早織	高松赤十字病院 検査部	輸血検査係長	①	①	赤血球2バッグ、血漿1バッグ
147		臨床免疫学実習	伊藤 洋志	長浜バイオ大学	准教授	①	①②	赤血球4バッグ、血漿235.0mL、検査残余全血4本
148		臨床検査学科における免疫検査学(含む輸血検査学)、臨床化学等の検査学実習	脇 英彦	森ノ宮医療大学 医療技術学部 臨床検査学科	学科長/教授	①	①②	赤血球10バッグ、血漿2バッグ、血漿725.0mL、検査残余全血42本
149		宮城県臨床検査技師会 精度管理事業	舩基 満	宮城県臨床検査技師会	精度管理部門長	①	①	血漿463.0mL
150		臨床検査技師養成大学における臨床免疫学実習Ⅰ	坊池 義浩	神戸学院大学 栄養学部	准教授	①	①②	赤血球2バッグ、血漿515.0mL、セグメント全血70本、検査残余全血50本

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
151		ヒト末梢血単球を用いた免疫応答反応のメカニズム解明	中川 晋作	大阪大学大学院 薬学研究科	教授	②	①	全血12059.0mL
152		痛風・高尿酸血症リスクに関連するABC2遺伝子の解析-Jra抗原陰性者の解析による新規リスク変異の検討	松尾 洋孝	防衛医科大学校 分子生体制御学講座	教授	②	②	検査残余全血77本
153		(一社)神奈川県臨床検査技師会 精度改善事業	芹澤 昭彦	(一社)神奈川県臨床検査技師会	会長	①	①	赤血球2バッグ
154		免疫検査学実習 輸血関連検査実習	山口 聡	東洋公衆衛生学院 臨床検査技術学科	学科長	①	①	赤血球5バッグ、血漿4バッグ
155		学生に対する教育目的	田村 彰吾	北海道大学大学院 保健科学研究院	准教授	①	①②	赤血球3バッグ、血漿1バッグ、血漿503.0mL、セグメント全血90本、検査残余全血40本
156		香川県輸血検査外部精度管理調査	宮川 朱美	香川県臨床検査技師会	会長	①	①	赤血球2バッグ、血漿994.0mL
157		全衛連臨床検査精度管理調査	高木 康	公益社団法人 全国労働衛生団体連合会 臨床検査専門委員会	委員長	①	②	検査残余血清7000.0mL
158		臨床検査技師養成教育における輸血検査実習	小野川 傑	埼玉医科大学 保健医療学部 臨床検査学科	教授	①	①	赤血球8バッグ、血漿8バッグ
159		鳥取県臨床検査精度管理調査	湯田 範規	一般社団法人 鳥取県臨床検査技師会	会長	①	①	赤血球2バッグ、血漿759.0mL
160		血液センター供給血を用いた輸血移植学実習	山口 孝一	国際医療福祉大学	助教	①	①	赤血球2バッグ、血漿1バッグ
161		赤血球製剤及び血漿分画製剤における病原体不活化法の研究及びB型・C型肝炎ウイルスの培養系の確立	小林 清子	埼玉医科大学 医学部	講師	①②	②	検査残余血漿450.0mL
162		輸血検査学実習	林 由里子	群馬バース大学 保健科学部 検査技術学科	准教授	①	①	赤血球5バッグ、血漿250.0mL
163		東京都登録衛生検査所の精度管理事業	田中 朝志	東京医科大学 八王子医療センター	准教授	①	①	赤血球2バッグ、血漿1バッグ、血漿253.0mL
164		輸血実技講習会	藤岡 克徳	一般社団法人 岡山県臨床検査技師会	会長	①	①	赤血球4バッグ、血漿1バッグ、血漿243.0mL
165		Medical gasによる血小板保存法の開発	矢倉 富子	東京医科大学 人体構造学分野	講師	①	①	血小板15バッグ
166		山形県臨床検査技師会 輸血細胞治療部門 実技研修会	加藤 美加	山形県臨床検査技師会	輸血細胞治療部門長	①	①	赤血球2バッグ
167		山形県臨床検査技師会 輸血細胞治療部門 精度管理	加藤 美加	山形県臨床検査技師会	輸血細胞治療部門長	①	①	赤血球3バッグ、血漿479.0mL
168		ヒト赤血球由来プロテアソームの構造研究	森本 幸生	京都大学 複合原子力科学研究所	教授	②	①	赤血球5バッグ
169		有効なクリオプレシビートの院内調製と凍結乾燥の基礎検討	藤田 浩	東京都立墨東病院 輸血科	部長	①	①	血漿10バッグ
170		災害臨床における医学薬学共同による無人航空機(UAV)の活用 ドローンによる血液製剤搬送	藤田 浩	東京都立墨東病院 輸血科	部長	①	①	赤血球15バッグ
171		微小振動環境下における赤血球の流動特性に関する実験的研究	百武 徹	横浜国立大学	教授	②	②	検査残余全血26本
172		油症におけるダイオキシン類・PCBの人体暴露と評価手法に関する研究 ③血液中ダイオキシン類・PCB濃度測定精度管理	堀 就英	福岡県保健環境研究所	計測技術課長兼生活化学課長	②	①	全血757.0mL
173		体外循環における回路内血液凝固の専属的検出システム構築	坂元 英雄	公立小松大学	講師	②	①	全血5217.0mL
174		令和4年度(第35回)和歌山県臨床検査技師会臨床検査精度管理調査	田中 規仁	一般社団法人 和歌山県臨床検査技師会	会長	①	①	赤血球4バッグ、血漿3バッグ
175		日臨技近畿支部における輸血講習会の開催	坊池 義浩	日本臨床衛生検査技師会近畿支部	輸血細胞治療部門長	①	①	赤血球5バッグ、血漿4バッグ

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
176		SMBG用コントロール物質の製造	奥 裕一	日水製薬株式会社 結城研究部	部長	②	①	赤血球24バッグ
177		HBs抗原陽性若年献血者におけるHBワクチンエスケープ変異株の検討	四柳 宏	東京大学 医科学研究所 先端医療研究センター 感染症分野	教授	②	②	検査残余血漿100本
178		希少糖をベースとした新規抗マラリア薬の開発	新井 明治	香川大学 医学部	准教授	②	①	赤血球18バッグ、血漿2058.0mL
179		輸血検査の精度の確保に関する研究	大友 直樹	東京医科歯科大学病院 輸血・細胞治療センター	臨床検査技師長	①	①	血漿1バッグ、血漿241.0mL
180		標準血清およびコントロール血清への使用	菅 亮彦	株式会社カインス	研究所所長	②	①②	血漿100バッグ、検査残余血清5000本
181		ヒト血液を用いたin vitro培養系のマラリア原虫のオルガネラの解析	彦坂 健児	千葉大学大学院 医学研究院 感染生体防御学	准教授	②	①	赤血球25バッグ、血漿7バッグ
182		公益社団法人 大阪府臨床検査技師会 ヘモグロビンA1c精度管理事業での使用	増田 詩織	公益社団法人 大阪府臨床検査技師会	会長	①	①	赤血球1バッグ、血漿1バッグ
183		長野県における輸血検査教育	小嶋 俊介	信州大学 医学部 附属病院 輸血部	主任臨床検査技師	①	①	赤血球4バッグ、血漿4バッグ
184		献血血液等 検査残余血液(全血):EDTA採血を用いた品質確認試験(検査)	黒澤 竜雄	富士フィルムヘルスケアニューファクトリー株式会社 三重事業所 臨床診断生産本部 検査部	部長	②	②	検査残余全血540本
185		輸血・移植検査学実習	内堀 恵美	京都橋大学健康科学部臨床検査学科	専任講師	①	①	赤血球4バッグ、血漿4バッグ
186		先進医療機器のための抗血栓材料の開発	田中 賢	九州大学先導物質化学研究所	教授	②	①	全血6926.0mL
187		ナショナルバイオリソースプロジェクトにおけるマラリア原虫株の培養と維持管理	金子 修	長崎大学 熱帯医学研究所 生物資源室	所長/教授	②	①	赤血球1バッグ
188		新しいヒト免疫不全ウイルス制御法の開発研究	布矢 純一	獨協医科大学 微生物学講座	講師	②	②	白血球除去フィルター5個
189		悪性腫瘍に対する養子免疫T細胞療法の開発研究	布矢 純一	獨協医科大学 微生物学講座	講師	②	②	白血球除去フィルター5個
190		抗マラリア活性化化合物の探索と創薬研究	和田 章	国立研究開発法人理化学研究所 生命機能科学研究センター	専任研究員	②	①	赤血球24バッグ
191		マイクロ流路デバイス用の前処理チップの開発	須釜 裕司	日東紡績株式会社メディカル研究開発センター	センター長	②	①	全血391.0mL
192		臨床検査技師実習技能研修(輸血)	前島 基志	国立病院機構関東甲信越グループ	臨床検査専門職	①	①	赤血球3バッグ、血漿4バッグ
193		臨床検査技師養成大学における臨床免疫学(輸血療法検査)教育・手技の修得	清水 慶久	北陸大学	教授(臨床免疫学担当)	①	①②	血漿1バッグ、血漿562.0mL、検査残余全血9本
194		ヒト赤血球およびヒト抹消細胞を用いたマラリア原虫生成物による免疫応答機構の解析	ジェヴィア チョバン	東京大学 医科学研究所 感染免疫部門 マラリア免疫学分野	教授	②	①	赤血球14バッグ
195		高知県臨床検査精度管理調査の血液試料(保健事業目的のため)	市川 厚	一般社団法人 高知県臨床検査技師会	臨床検査技師	②	①	全血425.0mL
196		学内検査実習(免疫検査学実習Ⅱ)	天川 雅夫	岐阜医療科学大学	准教授	①	①②	赤血球10バッグ、血漿6バッグ、血漿954.0mL、セグメント全血80本
197		長崎県臨床検査技師会 輸血検査研究班活動	松永 光博	長崎県臨床検査技師会 輸血検査研究班	理事	①	①	赤血球3バッグ、血漿1バッグ、血漿217.0mL
198		熊本県内における臨床検査精度向上のための精度管理	田中 信次	熊本県臨床検査技師会	熊本県臨床検査技師会長	①	①	赤血球4バッグ、血漿762.0mL
199		熱帯熱マラリア原虫薬剤耐性機構の研究	新澤 直明	東京医科歯科大学	助教	②	①	赤血球52バッグ、血漿52バッグ
200		日本赤十字社より譲渡を受けた献血血液を用いた熱帯熱マラリア原虫培養系を利用した、マラリアワクチン、薬剤、診断法の評価系の開発	狩野 繁之	国立研究開発法人 国立国際医療センター 研究所	熱帯医学・マラリア研究部長	②	①	赤血球24バッグ、血漿24バッグ

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
201		輸血前検査の精度管理(東京都病院経営本部 東京都立病院輸血分野検討会 統一精度管理 (凝集サーベイ))	市川 智士	東京都監査医務院	科長	①	①	赤血球3バッグ
202		令和4年度秋田県臨床検査技師会精度管理調査	加藤 亜有子	秋田県臨床検査技師会	輸血細胞治療部門 長	①	①	赤血球2バッグ、血漿625.0mL
203		群馬県臨床検査精度管理調査	松井 直紀	一般社団法人 群馬県臨床 検査技師会	制度保証部精度管 理委員会委員長	①	①	赤血球5バッグ、血漿4バッグ、血漿513.0mL
204		2年次 輸血・移植検査学実習	谷澤 正博	西武学園医学技術専門学校	臨床検査技師科 学 科長	①	①	赤血球12バッグ、血漿8バッグ
205		北海道医療大学 医療技術部 輸血学実習	幸村 近	北海道医療大学 医療技術 部	学部長・教授	①	①	赤血球5バッグ、血漿2バッグ、血漿711.0mL
206		令和4年度 青森県臨床検査技師会 輸血・移植 検査部門 精度管理調査	小山内 崇将	青森県臨床検査技師会	学術班 輸血・細胞 治療部門 部門長	①	①	赤血球2バッグ、血漿560.0mL
207		ヒト血液を用いたマalaria原虫の培養	徳舛 富由樹	長崎大学 熱帯医学研究所 細胞環境構築学分野	教授	②	①	血漿24バッグ
208		発熱性物質評価法の開発	工藤 由起子	国立医薬食品衛生研究所	衛生微生物部長	②	①	全血1007.0mL
209		iPS細胞由来のHLAクラスI欠失巨核球細胞のスト ックおよび血小板産生に関する研究	江藤 浩之	京都大学iPS細胞研究所	教授	①	①	血小板371.0mL
210		血漿セレン含有タンパク質 セレノプロテインPによる インスリン抵抗性誘導メカニズムの解明	三田 雄一郎	同志社大学 生命医科学部 医学生命システム学科	助教	②	①	血漿33バッグ、血漿2501.0mL
211		血小板凝集活性に対するGal-9の作用とその分子 標的の同定	有川 智博	東北医科薬科大学 医学部 医学教育推進センター	准教授	②	①	血小板1バッグ
212		熱帯熱マalaria原虫の培養系を用いた抗マalaria 新規治療薬の探索	北 深	長崎大学 熱帯医学・グロ バルヘルス研究	教授	②	①	赤血球51バッグ
213		血液凝固・線溶検査用コントロール物質の製造	奥 裕一	日水製薬株式会社	結城研究部 部長	②	①	血漿60バッグ
214		精度管理調査の改善と施設間差解消のための検 体性状の改善についての検討	浦田 香代美	地域医療機能推進病院 臨 床検査技師会	精度管理委員長	①	②	検査残余血清30000.0mL
215		質量分析法による献血血液のメタボロミクスプロ ファイリング	北 芳博	東京大学大学院 医学系研 究科	准教授	②	②	検査残余血漿2880本、検査残余血清2880本
216		生化学用コントロール物質の製造	奥 裕一	日水製薬株式会社	結城研究部長	②	②	検査残余血清30000.0mL
217		輸血学実習授業のための譲渡血	高山 成伸	大東文化大学 スポーツ・健 康科学部	教授	①	①	赤血球11バッグ、血漿3バッグ、血漿483.0mL
218		学生に対する教育目的(輸血検査の手順と結果の 判断力を身につけ、血液製剤の適応と選択でき る。)	佐藤 進一郎	高知学園大学 健康科学部 臨床検査学科	教授	①	①②	赤血球9バッグ、血漿1バッグ、血漿 1427.0mL、検査残余全血130本
219		藤田医科大学医療科学部の臨床検査技師養成教 育のため	松浦 秀哲	藤田医科大学 医療科学部	准教授	①	②	検査残余全血10本
220		東京都臨床検査技師会 輸血レベルの向上を目 指した教育的使用	原田 典明	公益社団法人 東京都臨床 検査技師会	会長	①	①	赤血球6バッグ、血漿3バッグ、血漿724.0mL
221		茨城県臨床検査技師会による所属施設への輸血 検査業務支援	岩田 幸広	公益社団法人 茨城県臨床 検査技師会	生命倫理検査部門 輸血・移植検査分野 分野長	①	①	赤血球2バッグ、血漿1バッグ、血漿255.0mL
222		熊本県内における臨床検査精度向上のための輸 血検査技術講習会の実技指導	田中 信次	熊本県臨床検査技師会	熊本県臨床検査技 師会会長	①	①	赤血球4バッグ、血漿697.0mL
223		犯罪鑑識を目的とした血液の利用について	谷口 真司	滋賀県警察本部刑事部 科 学捜査研究所	総括研究員	②	①	全血350.0mL
224		長崎県臨床検査技師会 輸血検査研究班活動	潮屋 春菜	長崎県臨床検査技師会 輸 血検査研究班	班長	①	①	赤血球4バッグ、血漿1バッグ、血漿247.0mL
225		等速電気泳動による血漿セルフリーDNAの分離法 の最適化	二井 信行	芝浦工業大学	教授	②	②	検査残余血漿30本

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
226		北海道臨床衛生検査技師会 輸血部門 実技研修会	早坂 光司	北海道臨床衛生検査技師会	会長	①	①②	赤血球3バッグ、血漿1バッグ、血漿242.0mL、検査残余全血4本
227		輸血検査に関する実習	安田 好徳	札幌医学技術福祉歯科専門学校 医療技術部 臨床検査学科	専任教員	①	①②	赤血球4バッグ、血漿1バッグ、血漿484.0mL、検査残余全血80本
228		再生医療に用いるiPS細胞の製造法・評価法などプロセス改良の検討に関する研究	塚原 正義	京都大学iPS細胞研究財団 研究開発センター	センター長	①	②	白血球除去フィルター13個
229		輸血検査精度管理調査	松下 正	日本輸血・細胞治療学会	理事長	①	①	赤血球19バッグ、血漿11バッグ
230		FFP解凍装置の改良による製剤品質への影響	池田 和彦	福島県立医科大学 輸血・移植免疫学講座	教授	①	①	血漿12バッグ
231		ウルトラファインバブル酸素含有る過用補充液を用いた血液酸素化の研究	宮園 素明	佐賀大学医学部附属病院 腎臓内科	准教授	②	①	赤血球15バッグ
232		COVID-19を中心とした新興感染症に対する免疫基盤研究	藤井 真一郎	国立研究開発法人理化学研究所 生命医学研究センター	免疫細胞治療研究チーム チームリーダー	②	①	全血12205.0mL
233		麻酔薬の腫瘍免疫における免疫チェックポイント分子に及ぼす影響の探索について	鬼塚 信	九州保健福祉大学	教授	②	②	白血球除去フィルター22個
234		培養マリア原虫を使用した自動血球分析装置の性能評価	小西 綾	シスメックス株式会社診断薬エンジニアリング本部細胞技術グループ	部長補佐	②	①	赤血球2バッグ
235		京都府臨床検査技師会 精度管理調査	日下部 昌平	一般社団法人京都府臨床検査技師会 輸血研究班	班長	①	①	赤血球3バッグ、血漿3バッグ、血漿206.0mL
236		マイクロ流路デバイスを用いた白血球分離手法の開発	田口 明	京セラ株式会社 EPデバイス開発部	EPデバイス開発部責任者	②	②	検査残余全血510本
237	○	揮発性毒物検査法実習	宮口 一	科学警察研究所 法科学第三部化学第五研究室	室長	②	①②	全血378.0mL、検査残余全血8本
238	○	臨床検査技師養成校における輸血検査教育・実習	小川 一英	福島県立医科大学 保健科学部 臨床検査学科	学科長	①	①②	赤血球13バッグ、血漿3バッグ、血漿1217.0mL、検査残余全血15本
239	○	輸血検査学実習における学生教育の実施。	魚住 諒	日本医療大学 保健医療学部 臨床検査学科	講師	①	①②	赤血球4バッグ、血漿911.0mL、セグメント全血250本、検査残余全血140本
240	○	輸血検査教育(実技)による使用	塩野 則次	東邦大学医療センター 大森病院	教授	①	①	赤血球13バッグ、血漿11バッグ
241	○	九州地区卒後教育セミナー	倉重 康彦	日本臨床衛生検査技師会	九州支部長	①	①	赤血球3バッグ、血漿2バッグ、血漿236.0mL
242	○	血液流動時の物理刺激が血液細胞に与える影響の調査研究	渡邊 宣夫	芝浦工業大学システム理工学部生命科学科	教授	②	①	全血2476.0mL、血小板1バッグ、血小板1050.0mL
243	○	FFWKユーザー輸血検査研修会(中国地区)	山下 省一	富士フイルム和光純薬株式会社 臨床検査薬学術開発本部	西日本学術部 課長	①	①	赤血球2バッグ、血漿1バッグ、血漿305.0mL
244	○	令和5年度 高臨技・四県合同研修会(輸血検査研究班)	山中 茂雄	(一社)高知県臨床検査技師会	臨床検査技師	①	①②	赤血球5バッグ、血漿1バッグ、血漿1481.0mL、セグメント全血
245	○	輸血検査実技講習会	内海 伴教	三重県合同輸血療法委員会	技師部会担当	①	①	全血157.0mL、赤血球2バッグ、血漿1バッグ
246	○	急性心原性脳塞栓症患者に対する自己骨髄単核球投与治療法の確立と細胞分離機器の開発	塩山 高広	日本光電工業株式会社 荻野記念研究所 CR開発部	マネージャ	②	①	全血1909.0mL
247	○	新生児マススクリーニング検査の外部精度管理検体(PT検体、QC検体)の製造	篠塚 直樹	札幌イム・ノダイアグノスティック・ラボラトリー	課長	②	①②	赤血球8バッグ、血漿2バッグ、白血球除去フィルター2個
248	○	新生児マススクリーニング用体外診断用医薬品・研究用試薬のスタンダード濾紙血液及びコントロール濾紙血液への使用	山田 博紀	(株)第一岸本臨床検査センター	課長	②	①	赤血球45バッグ、血漿10バッグ、血漿2260.0mL
249	○	結核感染症およびウイルス感染症に対する脂質免疫系の分子基盤解明	森田 大輔	京都大学 医生物学研究所	助教	②	②	白血球除去フィルター5個
250	○	第2学年対象 輸血・移植検査学実習および技能習得達成度評価	木村 美智代	新渡戸文化短期大学臨床検査学科	准教授	①	①	赤血球29バッグ、血漿25バッグ、血漿1271.0mL

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
251	○	感染症検査試薬の性能評価	藤田 顕樹	アボットジャパン合同会社 総合研究所	製品研究室 室長	①②	①②	血漿17バッグ、血漿24379.0mL、検査残余血漿2000本、検査残余血清5000本
252	○	HEVに関する新規検査試薬の性能評価	谷村 忠幸	ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社	ヘルスケアエクセレンス本部長	②	①②	血漿21バッグ、血漿19293.0mL、検査残余全血100本、検査残余血漿100本、検査残余血清100本
253	○	Parvo B19に関する新規検査試薬の性能評価	谷村 忠幸	ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社	ヘルスケアエクセレンス本部長	②	②	検査残余血漿3100本、検査残余血清5244本
254	○	血液検査学実習	山本 哲志	近畿大学薬学部	講師	①	①	全血141.0mL
255	○	ウイルス感染症制御における免疫細胞応答の解明	藤野 真之	国立感染症研究所	主任研究官	②	②	白血球除去フィルター1個
256	○	鹿児島県医師会臨床検査精度管理調査	池田 琢哉	公益社団法人 鹿児島県医師会	会長	①	①	全血2バッグ
257	○	過敏性肺炎における鳥由来抗原タンパク(Haemagglutinin lambda-like polypeptide-1)に対する特異的IgG抗体測定の有効性の検討	白井 剛	東京医科歯科大学 呼吸器内科	医学部内講師	②	②	検査残余血清50本
258	○	学内における第3学年対象の免疫検査学実習[輸血検査部分]および同科目内容の学内臨床実習	横尾 智子	日本医療科学大学 保健医療学部 臨床検査学科	教授	①	①	赤血球25バッグ、血漿19バッグ、血漿1747.0mL
259	○	融解新鮮凍結血漿の保管条件による血液凝固活性値に関する研究	藤井 輝久	広島大学病院輸血部	輸血部長	①	①	血漿9バッグ、血漿234.0mL
260	○	京都府臨床検査技師会 精度管理調査	福光 弘明	一般社団法人京都府臨床検査技師会 臨床化学免疫血清研究班	精度管理担当者	①	①	赤血球2バッグ
261	○	献血者における梅毒流行株についての解析	安達 英輔	東京大学医学部研究所附属病院 感染免疫内科	講師	②	②	検査残余全血50本、検査残余血漿50本、検査残余血清50本
262	○	抗ウイルス薬ガシクシロピルのヘモフィルター吸着に関する研究	石井 伊都子	千葉大学医学部附属病院薬剤部・薬学研究院	教授・薬剤部長	②	①	赤血球9バッグ、血漿5バッグ
263	○	免疫チェックポイント阻害剤に対する応答性を予測する血清バイオマーカーの開発	雨宮 貴洋	東京大学医学部附属病院	助教	②	②	検査残余血清200本
264	○	無人航空機を用いた血液製剤搬送の実行可能性と品質への影響に関する研究	長井 一浩	長崎大学病院 細胞療法	准教授	①	①	赤血球16バッグ
265	○	生体腎移植におけるBKポリマーウイルス(BKPyV)関連腎症の臨床的危険因子の探索的研究	齋藤 満	秋田大学医学部附属病院血液浄化療法部	准教授	②	②	検査残余全血20本
266	○	第38回輸血検査基礎実技研修会	高瀬 麻由美	一般社団法人群馬県臨床検査技師会	学術部長	①	①	赤血球1バッグ
267	○	残余血小板を用いた薬物性肝障害リスク評価法の開発	伊藤 晃成	千葉大学大学院薬学研究院	教授	②	①	血小板1バッグ
268	○	質量分析等の新たな分析法に利用する標準物質およびコントロール物質の製造	奥 裕一	日水製薬株式会社	結城研究部 部長	②	①	血漿10バッグ
269	○	輸血細胞治療部門技術講習会	松浦 裕	宮崎県立日南病院	主任技師	①	①	赤血球3バッグ、血漿722.0mL
270	○	日本赤十字社由来血清を用いたパラミクソウイルスタンパク質に対する交差反応性解析	大倉 薫	国立感染症研究所	主任研究官	②	②	検査残余血清100本

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
271	○	血液細胞からのiPS細胞作製に関する研究開発	中川 誠人	京都大学iPS細胞研究所	講師	②	②	白血球除去フィルター5個
272	○	赤血球製剤及び血漿分画製剤における病原体不活化法の研究及びパルボウイルスB 19の培養法の確立	小林 清子	埼玉医科大学医学部	講師	②	①	血漿1811.0mL
273	○	日本で初めての自動無人航空機(ドローン)による血液輸送(レベル4を見据えたレベル3)実証実験	薬師寺 史厚	横浜薬科大学薬学部	客員教授	①	①	赤血球2バッグ
274	○	「白血球除去工程後のフィルター」に含まれる白血球分画のフィーダー細胞としての機能評価	岩田 卓	慶應義塾大学	専任講師	②	②	白血球除去フィルター30個
275	○	ヒト末梢血および臍帯血から得られる制御性T細胞の比較研究および臨床応用を目指した基礎的知見の蓄積	坂口 志文	京都大学医生物学研究所・生体再建学分野	客員教授	②	①	全血15Lバッグ

※1 献血血液の使用目的	① 血液製剤の有効性・安全性及び献血の安全性の向上を目的とした使用
	② 国の公衆衛生の向上を目的とした使用
※2 献血血液の区分	① 血液製剤の規格等に適合しない血液(検査により不適合となった血液、販売されず有効期限切れの血液製剤)
	② 血液製剤の製造に伴って副次的に得られる献血血液又は中間生成物(検査用検体の残余血液、保管年限(11年)を超えた調査用の血液、血液製剤の製造過程で得られる廃棄画分)
	③ 血液製剤の規格等に適合する献血血液等であって血液製剤の安定供給に支障の生じない量のもの

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

【日本赤十字社内への提供】

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
1		HEV NATシステムの評価および感染実態調査における試料(一部はパネル)として	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①②	血漿183バッグ、検査残余血清1853本
2		感染症関連検査の精査(検査部門に係る技術的検討)	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①	血漿159バッグ
3		北海道献血者におけるALT不合格検体の解析の試料として	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余血清3715本
4		コバス5800の性能評価に係る測定検体として	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余血清107本
5		赤血球型遺伝子解析とタイピング法の確立における試料として	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余血漿13本
6		献血時の検査用検体の残余血液を用いた新型コロナウイルス感染症の抗体保有率実態調査(第3回～第8回)への協力について	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余血清2304本
7		スクリーニングNAT陽性(HBV同定)血液の確保と送付について	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①	血漿3バッグ
8		HIV検査陽性時の対応について	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①	血漿2バッグ
9		HTLV-1抗体陽性血液の提供について	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①	血漿2バッグ
10		不規則抗体陽性パネルの作製	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①	血漿40バッグ
11		PK7400用コントロールの作製	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血1101本
12		不規則抗体同定用パネル血球の作製	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①②	赤血球23バッグ、検査残余全血72本
13		血液型関連パネル血球の作製	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①	赤血球25バッグ
14		研修生等の実技研修	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①②	セグメント全血8本、検査残余全血8本
15		職員の教育訓練のため	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血1本
16		単球貪食試験(研究G)	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血52本
17		IH-1000 パリテーション	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①②	赤血球8バッグ、血漿1バッグ、検査残余血漿50本
18		女性献血者におけるHPA-21b抗体の抗体スクリーニング	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血2875本
19		ABO異型血小板輸血における不応原因の血小板貪食試験による評価	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血1705本
20		血小板保存に関する研究(製剤-168)の試料として	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	②	血小板数測定用検体22本
21		血小板溶解液の調製に係る研究(製剤-173,製剤-174,製剤-175,製剤-176)の試料として	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①	血小板5バッグ
22		血小板溶解液の調製に係る研究(製剤-173,製剤-174,製剤-175,製剤-176)の試料として	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①	血小板2バッグ
23		血小板溶解液の調製に係る研究(製剤-173,製剤-174,製剤-175,製剤-176)の試料として	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①	血小板4バッグ
24		血小板溶解液の調製に係る研究(製剤-173,製剤-174,製剤-175,製剤-176)の試料として	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	②	白血球除去フィルター516本
25		血小板溶解液の調製に係る研究(製剤-173,製剤-174,製剤-175,製剤-176)の試料として	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①	血漿6バッグ

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
26		血小板溶解液の調製に係る研究(製剤-173,製剤-174,製剤-175,製剤-176)の試料として	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	②	その他(成分採血装置残余血)
27		血液製剤の保存における可塑剤(DEHP)溶出量に関する研究(製剤-167)の試料として	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	③	全血24バッグ
28		血液製剤の保存における可塑剤(DEHP)溶出量に関する研究(製剤-167)の試料として	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①	全血23バッグ
29		血液製剤の保存における可塑剤(DEHP)溶出量に関する研究(製剤-167)の試料として	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①	赤血球3バッグ
30		自動血球分析装置に関する研究(製剤-169)の試料として	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	②	血小板数測定用検体20本
31		厚生労働省が実施する新型コロナウイルス感染症抗体保有率実態調査のため	柴崎 至	東北ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余血清2304本
32		NAT検査用試薬の改良等を目的とした血液バッグの送付	柴崎 至	東北ブロック血液センター	所長	①	①	血漿1バッグ
33		HPA-15抗体コントロール用として、中央血液研究所へ送付	柴崎 至	東北ブロック血液センター	所長	①	①	血漿2バッグ
34		まれ血・垂型・抗体同定(確認・検討用)	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①	血漿53バッグ、赤血球49バッグ
35		モノクローナル抗体試薬の製造	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血1513本
36		依頼検査用検体	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①②③	赤血球16バッグ、検査残余全血5641本
37		血液型検査用試薬の製造原料として和光純薬工業(株)に提供	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①②③	赤血球104バッグ、検査残余全血1785本
38		自動検査機器の精度管理用(原料血用・抗原陰性血用)	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	③	赤血球88バッグ、血漿3本
39		不規則抗体スクリーニング検査用自動機器(IH-1000)用試薬原料	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	③	赤血球2バッグ
40		不規則抗体同定用パネル血球原料等	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	③	赤血球144バッグ
41		HTLV-1陽性検体の提供について(依頼)	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①	血漿1バッグ
42		HTLV-2陽性検体の提供について(依頼)	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①	血漿12バッグ
43		HTLV-3陽性検体の提供について(依頼)	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①	血漿1本
44		HTLV-4陽性検体の提供について(依頼)	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	③	血漿3バッグ
45		HTLV-5陽性検体の提供について(依頼)	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	③	血漿5バッグ
46		血研第146号(令和3年7月29日付)によるNAT陽性(MPX陽性かつ同定陰性)血液の確保依頼について	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①	血漿2バッグ
47		献血時の検査用検体の残余血液を用いた新型コロナウイルス感染症の抗体保有率実態調査(第3回～第8回)への協力について	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余血清6672本
48		血小板抗体検査用パネル作成のため	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	②	血小板数測定用検体76本
49		検査用コントロールの作製	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	②③	血漿3バッグ、検査残余血清270本
50		白血球・血小板ワークショップHPA抗体検出のルーチン化に向けた検討	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	③	血漿1バッグ

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
51		血液事業研究「(赤-143)献血者における抗A・抗B抗体価 低下の調査」	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血196本
52		白-98簡便・迅速なHPA型タイピング試薬の開発	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血108本
53		照射凍結赤血球-LR「日赤」用事解凍洗浄のプロセスバリデーションの実施について	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	②	赤血球3バッグ
54		フローサイトメーター(Navios)の精度管理	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	②	血算用検体2本
55		合成血教育訓練	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①	血漿10バッグ、赤血球1バッグ
56		血液型検査	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	②	血算用検体2本
57		PK用試薬の製造(和光)	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血544本、検査残余血漿532本、血算用検体2本
58		血液型関連検査用コントロール及びパネルの作製	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	②③	赤血球9バッグ、検査残余全血3515本
59		三次検査	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①②③	赤血球22バッグ、血漿14バッグ、検査残余全血26本、検査残余血清76本、血算用検体92本
60		用手法用血球試薬の製造	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	②③	赤血球157バッグ、検査残余血漿876本、血算用検体10本
61		献血時の検査用検体の残余血液を用いた新型コロナウイルス感染症の抗体保有率実態調査(第3回～第8回)への協力について	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余血清16368本
62		HTLV-1抗体陽性血液の提供について(依頼)	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①	赤血球2バッグ、血漿11バッグ
63		ABO精査	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①	全血2バッグ、赤血球20バッグ、血漿3バッグ
64		Rh精査	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①	赤血球7バッグ
65		遡及調査	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①	血漿1バッグ
66		不規則抗体精査	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①	血漿7バッグ
67		研究課題の試料として	谷 慶彦	中央血液研究所	所長	①	①②	赤血球4バッグ、血漿14バッグ、検査残余全血10本
68		ウイルス核酸検査(核酸抽出法)の検討	谷 慶彦	中央血液研究所	所長	①	①③	全血2バッグ
69		各種調査用	谷 慶彦	中央血液研究所	所長	①	①	全血1バッグ
70		感染症スクリーニング検査における検査実施の有用性を検証するため	谷 慶彦	中央血液研究所	所長	①	②	検査残余全血9本、検査残余血清20本
71		譲渡血対応(28J0064:国立感染症研究所 水上拓郎先生)	谷 慶彦	中央血液研究所	所長	①	①	血漿5バッグ
72		譲渡血対応(R040034:国立感染症研究所 加藤孝宣先生)	谷 慶彦	中央血液研究所	所長	①	①	血漿20バッグ
73		譲渡血対応(29J0011国立感染症研究所)	谷 慶彦	中央血液研究所	所長	①	②	血漿5バッグ
74		ウイルス・細菌汚染対策研究用(スパイク実験・低減化実験など)	谷 慶彦	中央血液研究所	所長	①	①	血小板2バッグ
75		血液を通じて感染するおそれがある病原体の疫学研究	谷 慶彦	中央血液研究所	所長	①	②	検査残余血漿368本

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
76		質量分析装置MALDI-TOF MSによる細菌同定の検証	谷 慶彦	中央血液研究所	所長	①	①	血小板2バッグ
77		非特異反応の低減を目指す新規検査法開発の検討	谷 慶彦	中央血液研究所	所長	①	②	検査残余全血3本、血算用検体6本
78		細菌感染疑い血液製剤中の原因菌の分子遺伝学および生化学的解析	谷 慶彦	中央血液研究所	所長	①	①	血小板27バッグ
79		赤血球製剤における好冷細菌の増殖リスク調査および検出法の検討	谷 慶彦	中央血液研究所	所長	①	①	赤血球23バッグ、血小板8バッグ
80		白血球中に貪食された細菌DNA検出の検討	谷 慶彦	中央血液研究所	所長	①	①	全血12バッグ
81		全血分離時間の延長に係る予備的検討について	谷 慶彦	中央血液研究所	所長	①	③	全血20バッグ
82		「CD36に着目した血小板製剤のin vivo輸血効果評価法の開発」の試料として	谷 慶彦	中央血液研究所	所長	①	②③	血小板9バッグ、血小板数測定用検体68本
83		「Xeフラッシュ光を用いた血小板製剤の病原体不活化・低減化の技術の開発」の試料として	谷 慶彦	中央血液研究所	所長	①	①②	赤血球2バッグ、血小板79バッグ、血小板数測定用検体2本
84		「フェムト秒UV-Cバルスレーザ照射による血小板製剤混入細菌の低減化方法に関する検討」の試料として	谷 慶彦	中央血液研究所	所長	①	②	血小板数測定用検体56本
85		「血小板機能を反映したin vivoモデルの開発とその改良」の試料として	谷 慶彦	中央血液研究所	所長	①	①	赤血球2バッグ、血小板4バッグ
86		研究グループ、研究課題の試料として	谷 慶彦	中央血液研究所	所長	①	②	検査残余全血663本
87		細菌スクリーニングの導入に向けた血小板製剤の安定性試験	谷 慶彦	中央血液研究所	所長	①	①③	血小板44バッグ
88		製剤開発にかかる検討	谷 慶彦	中央血液研究所	所長	①	①③	赤血球15バッグ、血漿17べつぐ、血小板34バッグ
89		HLA発現量調査、血小板貪食試験用パネル、抗体検出用パネル細胞の収集	谷 慶彦	中央血液研究所	所長	①	②	検査残余全血40本
90		血小板貪食試験用パネルおよび血小板機能試験	谷 慶彦	中央血液研究所	所長	①	②	検査残余全血270本、血小板数測定用検体56本
91		非溶血性輸血副作用検査における健常人対照として	谷 慶彦	中央血液研究所	所長	①	②	検査残余全血270本、検査残余血漿200本、検査残余血清200本
92		MR研修会	竹尾 高明	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	①②	血漿1バッグ、検査残余全血100本
93		PK血球試薬の本社依頼品質試験用	竹尾 高明	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血30000本
94		規格試験認定試験のサンプル	竹尾 高明	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	①	赤血球8バッグ、血漿8バッグ、血小板12バッグ
95		凝集目合わせの教育訓練	竹尾 高明	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血50本
96		苦情調査(クロスマッチ)に使用	竹尾 高明	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血50本
97		血液型検査三次検査に使用	竹尾 高明	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血2500本
98		血液型検査に使用する解離液、レクチン等の調製	竹尾 高明	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血200本
99		血液型検査に使用する抗体試薬調製	竹尾 高明	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	①③	血漿35バッグ
100		血液型検査に使用する精度管理血球試薬調製	竹尾 高明	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血2200本

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
101		血液型検査に使用する生理食塩液の受入試験用	竹尾 高明	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血200本
102		血液型検査に使用するパネル血球試薬調製用	竹尾 高明	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血250本
103		検査機器のバリデーション	竹尾 高明	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血800本
104		中央血液研究所での検討	竹尾 高明	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	①②	血漿16バッグ、検査残余血漿79本
105		梅毒追加検査(RPR法)の陰性コントロール作成のため	竹尾 高明	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余血清10本
106		富士フィルム和光純薬への譲渡用	竹尾 高明	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血1800本
107		新型コロナウイルス感染症の抗体保有率実態調査	竹尾 高明	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余血清16128本
108		外観試験に係る教育訓練のため	竹尾 高明	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	①	赤血球4バッグ、血漿3バッグ、血小板2バッグ
109		「アレルギー性輸血副作用被疑製剤に含まれる広範な活性を示す物質の解析」の試料として	瀧原 義宏	近畿ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血296本
110		「ヒト血小板抗原15(HPA-15)の臨床的意義の解明に向けた多面的解析」の試料として	瀧原 義宏	近畿ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血349本
111		「白血球・血小板型に関する研究グループ」の試料として	瀧原 義宏	近畿ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血32本
112		PC-HLA関連検査に使用する試料として	瀧原 義宏	近畿ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血27本
113		PK7300用コントロールの作製	瀧原 義宏	近畿ブロック血液センター	所長	①	①	赤血球47バッグ
114		血液事業研究課題(幹-56)	瀧原 義宏	近畿ブロック血液センター	所長	①	③	全血18バッグ、白血球除去フィルター16個
115		血液型関連検査用コントロール及びパネルの作製	瀧原 義宏	近畿ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血1189本、検査残余血漿5本
116		血液型検査用試薬(自家調製)の製造原料のため	瀧原 義宏	近畿ブロック血液センター	所長	①	③	赤血球22バッグ
117		血液型検査用試薬の製造原料として富士フィルム和光純薬(株)に提供	瀧原 義宏	近畿ブロック血液センター	所長	①	③	赤血球66バッグ
118		血液事業研究 細菌-24	瀧原 義宏	近畿ブロック血液センター	所長	①	①②	血小板35バッグ、検査残余全血4本
119		細菌スクリーニング導入にかかる白血球数試験の評価試験	瀧原 義宏	近畿ブロック血液センター	所長	①	③	血小板6バッグ
120		細菌スクリーニングを導入した血小板製剤に係るバリデーションの実施について	瀧原 義宏	近畿ブロック血液センター	所長	①	③	血小板7バッグ
121		試薬の品質試験	瀧原 義宏	近畿ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余血清1920本
122		スワリングの数値化の検討	瀧原 義宏	近畿ブロック血液センター	所長	①	①	血小板26バッグ
123		精査目的	瀧原 義宏	近畿ブロック血液センター	所長	①	①	赤血球10バッグ、血漿39バッグ
124		モノクローナル抗体力価試験用	瀧原 義宏	近畿ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血82本
125		溶血度合いの数値化の検討	瀧原 義宏	近畿ブロック血液センター	所長	①	①	赤血球11バッグ

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
126		血小板抗体・抗原検査法検討の試料として	瀧原 義宏	近畿ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血60本
127		新型コロナウイルス感染症の抗体保有率実態調査	瀧原 義宏	近畿ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血13824本
128		副作用検査などの試料として	瀧原 義宏	近畿ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血131本
129		細菌スクリーニングPV	瀧原 義宏	近畿ブロック血液センター	所長	①	③	血小板7バッグ
130		PK7300コントロール	芦田 隆司	中四国ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血3056本
131		血球試薬	芦田 隆司	中四国ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血231本
132		二次検査コントロール	芦田 隆司	中四国ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血60本
133		三次検査	芦田 隆司	中四国ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血409本
134		血液型関連検査コントロール	芦田 隆司	中四国ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血9本
135		依頼検査	芦田 隆司	中四国ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血237本
136		HLA検査コントロール	芦田 隆司	中四国ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血334本
137		IH血球試薬	芦田 隆司	中四国ブロック血液センター	所長	①	③	赤血球35バッグ
138		HTLV-1 99.9以上のため	芦田 隆司	中四国ブロック血液センター	所長	①	①	血漿14バッグ
139		新型コロナウイルス感染症抗体保有率実態調査実施のため	芦田 隆司	中四国ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余血清20736本
140		核酸増幅検査用機器:PANTHER7のバリデーションのため	芦田 隆司	中四国ブロック血液センター	所長	①	①	血漿6バッグ
141		採血部門に係る教育訓練のため	芦田 隆司	中四国ブロック血液センター	所長	①	②	血算用検体85本
142		「生体内自然免疫による殺菌作用を利用した血液製剤の安全性向上」(細菌-25)	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	①②	血小板26バッグ、検査残余血清103本、血小板数測定用検体110本
143		HTLV-1 LIA判定保留事例の性状解析(感染-122)	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	①②	赤血球2バッグ、血漿2バッグ、検査残余血清1684本、血算用検体17本
144		HTLV-1 抗体スクリーニング検査の特異度に関する検討(感染-123)	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	①②	赤血球2バッグ、血漿2バッグ、検査残余血清1684本
145		HTLV-1抗体検査陽性血液の提供について	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	①	血漿999バッグ、血小板6バッグ
146		ICFA試薬品質試験	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血12本、血算用検体6本
147		Quickgene DNA whole blood kit S 受入試験	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	②	血算用検体2本
148		Rh血液型二次検査用RhD陰性コントロールとして	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血3本
149		Workflow HLA-A,B,Cタイピング試薬受入試験	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	②	血算用検体2本

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
150		過酷試験	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	①	血漿15バッグ
151		目合わせ用検体として	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	①②	血漿1バッグ、検査残余全血1本
152		血液型一次検査 PK用コントロールとして	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	①	赤血球98バッグ
153		厚生労働省が実施する新型コロナウイルス感染症抗体保有率実態調査への協力	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余血清15360本
154		抗原陰性血スクリーニング用コントロールとして	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血520本

※1 献血血液の使用目的	① 血液製剤の有効性・安全性及び献血の安全性の向上を目的とした使用
	② 国の公衆衛生の向上を目的とした使用
※2 献血血液の区分	① 血液製剤の規格等に適合しない血液(検査により不適合となった血液、販売されず有効期限切れの血液製剤)
	② 血液製剤の製造に伴って副次的に得られる献血血液又は中間生成物(検査用検体の残余血液、保管年限(11年)を超えた調査用の血液、血液製剤の製造過程で得られる廃棄画分)
	③ 血液製剤の規格等に適合する献血血液等であって血液製剤の安定供給に支障の生じない量のもの

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

【KMバイオリジクス株式会社への申請】

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
1	○	再生医療におけるスカフォールドとしてのフィブリン糊の機能向上に関する研究	江頭 恒	熊本大学大学院先端科学研究部	准教授	②	①	フィブリノゲン凍結乾燥粉末 5.0mL規格 60本 トロンビン乾燥粉末 2.0mL規格 20本 トロンビン乾燥粉末 3.0mL規格 40本

※1 献血血液の使用目的	① 血液製剤の有効性・安全性及び献血の安全性の向上を目的とした使用
	② 国の公衆衛生の向上を目的とした使用
※2 献血血液の区分	① 血液製剤の規格等に適合しない血液(検査により不適合となった血液、販売されず有効期限切れの血液製剤)
	② 血液製剤の製造に伴って副次的に得られる献血血液又は中間生成物(検査用検体の残余血液、保管年限(11年)を超えた調査用の血液、血液製剤の製造過程で得られる廃棄面分)
	③ 血液製剤の規格等に適合する献血血液等であって血液製剤の安定供給に支障の生じない量のもの

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

【KMバイオロジクス株式会社内への提供】

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
1		KMバイオロジクス株式会社 自己使用 (試験方法、製法改良、収率改善、試作製造などの研究開発、薬事対応用のデータ取得)				①	②	FX原画分 15mL II+III Censup 1L アルブミン25%中間製品 274本 アルブミン原画分 24mL アルブミン工程サンプル 12.2L アルブミン中間体 460.84kg トロンビン凍結乾燥粉末 50本 バイロット工程サンプル 60 mL バイロット中間製品 60本 フィブリノゲン工程サンプル 20mL フィブリノゲン凍結乾燥粉末 65本 血液凝固第Ⅷ因子原画分 5g 血液凝固第Ⅸ因子原画分 5.61 L 血液凝固第Ⅹ因子原画分 1395mL 血液凝固第Ⅹ因子工程サンプル 3L
2		KMバイオロジクス株式会社 自己使用 (製法改良)				①	③	グロブリン製剤中間体 75mL 沈殿 II+III 402kg

※1 献血血液の使用目的	① 血液製剤の有効性・安全性及び献血の安全性の向上を目的とした使用
	② 国の公衆衛生の向上を目的とした使用
※2 献血血液の区分	① 血液製剤の規格等に適合しない血液(検査により不適合となった血液、販売されず有効期限切れの血液製剤)
	② 血液製剤の製造に伴って副次的に得られる献血血液又は中間生成物(検査用検体の残余血液、保管年限(11年)を超えた調査用の血液、血液製剤の製造過程で得られる廃棄画分)
	③ 血液製剤の規格等に適合する献血血液等であって血液製剤の安定供給に支障の生じない量のもの

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

【日本血液製剤機構への申請等】

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
1	○	ハプトグロビンを用いた脳神経機能改善効果に関する研究		神戸医療産業都市推進機構 脳循環代謝研究部	部長	①	①	ハプトグロビン静注:2本
2		ウイルス除去フィルターの除去機構解明		旭化成メディカル バイオプロセス技術開発部	課長	①	①	献血ヴェノグロブリンIH5%静注(5g):8本 献血ヴェノグロブリンIH5%静注(2.5g):3本 献血ヴェノグロブリンIH5%静注(0.5g):54本
3	○	敗血症マウスにおけるグリコカリックス修復に関する基礎研究		大阪医科薬科大学 救急医学	准教授	①	①	ノイアート静注用(500単位):2本
4	○	感染症又はがんに対するAlpha-1-acid glycoprotein 1改変体の治療効果		京都薬科大学 薬剤学分野 和歌山県立医科大学 薬学部 薬剤学研究室	教授 助教	①	②	上清V:50L
5	○	LCAT遺伝子導入脂肪細胞医薬品の非臨床試験		セルジェンテック株式会社	代表取締役	②	①	フィブリノゲンHT静注用:10本

※1 献血血液の使用目的	① 血液製剤の有効性・安全性及び献血の安全性の向上を目的とした使用
	② 国の公衆衛生の向上を目的とした使用
※2 献血血液の区分	① 血液製剤の規格等に適合しない血液(検査により不適合となった血液、販売されず有効期限切れの血液製剤)
	② 血液製剤の製造に伴って副次的に得られる献血血液又は中間生成物(検査用検体の残余血液、保管年限(11年)を超えた調査用の血液、血液製剤の製造過程で得られる廃棄画分)
	③ 血液製剤の規格等に適合する献血血液等であって血液製剤の安定供給に支障の生じない量のもの

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

【日本血液製剤機構社内への提供】

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
1		JB 機構内研究 (新規薬効探索、作用機作解明、新製剤の開発・適応拡大、製法改良、試験製造などの研究開発)				①	①	献血ヴェノグロブリンIH10%静注(0.5g):40本 献血ヴェノグロブリンIH10%静注(2.5g):3本 献血ヴェノグロブリンIH10%静注(5g):13本 献血ヴェノグロブリンIH10%静注(10g):5本 献血ヴェノグロブリンIH10%静注(20g):2本 ヘプスリンIH静注:3本 ノイアート静注用(500単位):6本 ノイアート静注用(1500単位):16本 ハプトグロビン静注:1本 献血アルブミン25%静注(12.5g):42本 献血アルブミン5%静注(12.5g):1本 フィブリノゲンHT静注用:106本
2		JB 機構内研究 (新規薬効探索、作用機作解明、新製剤の開発・適応拡大、製法改良、試験製造などの研究開発)				①	②	ヘパリンカラム工程中間体:10L アルブミン製造工程中間体:50L
3		JB 機構内研究 (新規薬効探索、作用機作解明、新製剤の開発・適応拡大、製法改良、試験製造などの研究開発)				①	③	沈殿: Fraction II + III: 15.5kg 沈殿: Fraction II + IIIの抽出液: 400mL 凝固因子製剤用原料血漿: 8L
4		JB 機構内研究 (新規薬効探索、作用機作解明、新製剤の開発・適応拡大、製法改良、試験製造などの研究開発)				②	①	献血ヴェノグロブリンIH10%静注(0.5g):6本 献血ヴェノグロブリンIH10%静注(2.5g):3本 献血ヴェノグロブリンIH10%静注(5g):26本 献血ヴェノグロブリンIH10%静注(10g):17本 献血ヴェノグロブリンIH10%静注(20g):14本
5		JB 機構内研究 (新規薬効探索、作用機作解明、新製剤の開発・適応拡大、製法改良、試験製造などの研究開発)				②	③	アルブミン製造工程中間体:2510mL プール血漿:363mL

※1 献血血液の使用目的	① 血液製剤の有効性・安全性及び献血の安全性の向上を目的とした使用
	② 国の公衆衛生の向上を目的とした使用
※2 献血血液の区分	① 血液製剤の規格等に適合しない血液(検査により不適合となった血液、販売されず有効期限切れの血液製剤)
	② 血液製剤の製造に伴って副次的に得られる献血血液又は中間生成物(検査用検体の残余血液、保管年限(11年)を超えた調査用の血液、血液製剤の製造過程で得られる廃棄画分)
	③ 血液製剤の規格等に適合する献血血液等であって血液製剤の安定供給に支障の生じない量のもの

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

【武田薬品工業株式会社内への提供】

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
1		武田薬品工業株式会社 自己使用(試験製造)				①	③	原料血漿換算:92L分 (内訳) S I :90kg(原料血漿:78L分) SIV-4:44kg(原料血漿:14L分)

※1 献血血液の使用目的	① 血液製剤の有効性・安全性及び献血の安全性の向上を目的とした使用
	② 国の公衆衛生の向上を目的とした使用
※2 献血血液の区分	① 血液製剤の規格等に適合しない血液(検査により不適合となった血液、販売されず有効期限切れの血液製剤)
	② 血液製剤の製造に伴って副次的に得られる献血血液又は中間生成物(検査用検体の残余血液、保管年限(11年)を超えた調査用の血液、血液製剤の製造過程で得られる廃棄画分)
	③ 血液製剤の規格等に適合する献血血液等であって血液製剤の安定供給に支障の生じない量のもの